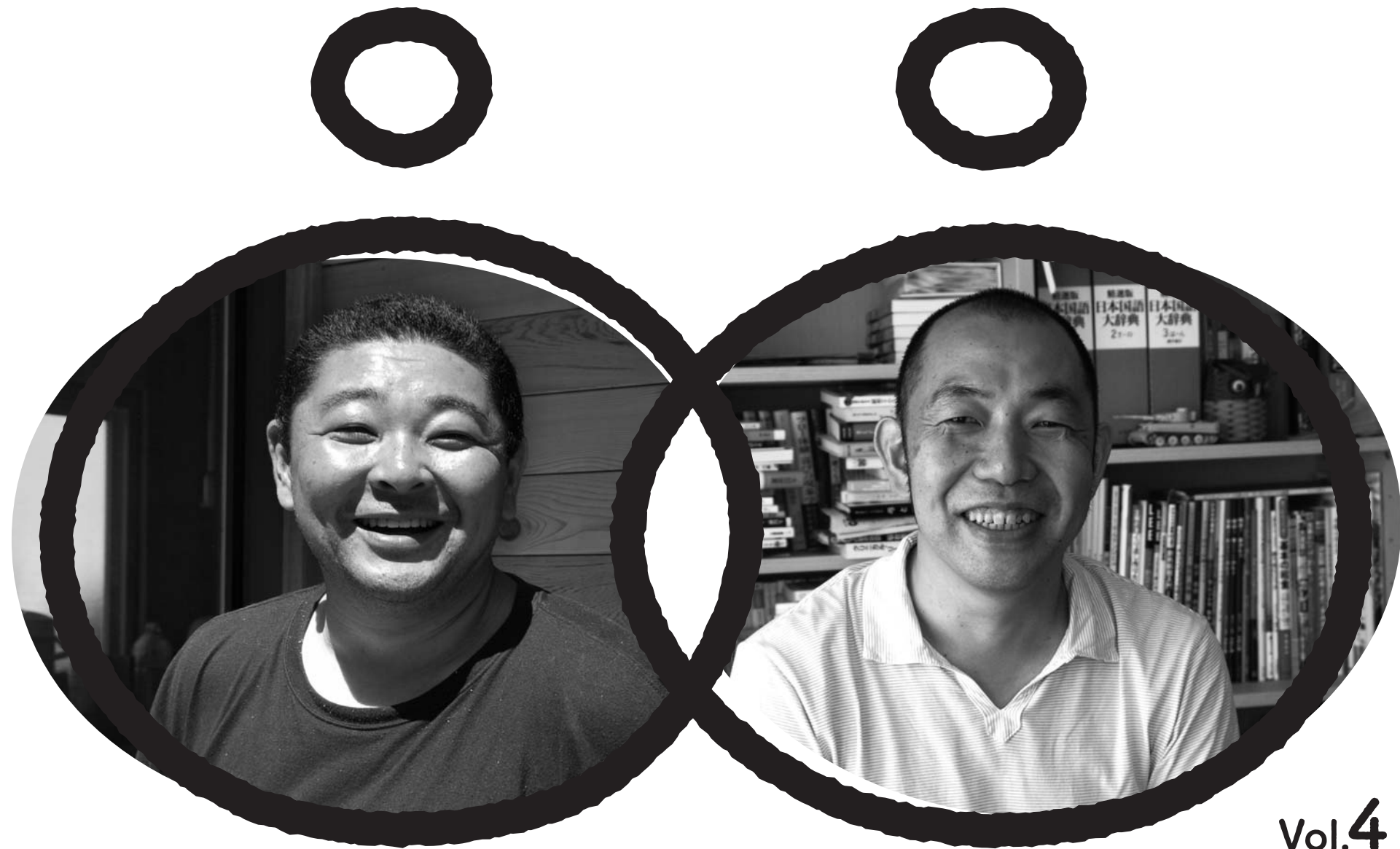


「物」を通じ 心をやりとり。

自分たちで
お金を稼ぐ
経済を回して
自立復興へ

いつもの
買い物が
支援に
製品として
もお気に入り



Vol.4

石巻工房の工房長 石巻市中央

千葉隆博さん（40）

工場でベンチやテーブルなどを作っています。雨風などに強く、水に濡れても腐らないレッドシダーという木を使っているんですよ。木を材料に使うので、値段も抑えられています。頑丈で外置き用にはもってこいです。工房ではほかに県外からやって来た若者3人が働いています。

わたしは石巻市の中心部で両親と寿司屋を営んでいました。津波で店が壊された。母親を亡くしました。母のいない店を再建する気にもなれず、いた昨年秋、工場で働かないかと誘われ、たんです。

が、支援製品の売り上げが、被災者の雇用や被災地の自立的な経済復興につながっています。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

「石巻工房」の家具を購入した仙台市青葉区の医師

佐藤隆裕さん（40）

今年6月、雨風に強く、外で使える大きな木のテーブルを買いました。石巻市で被災した人たちが働く「石巻工房」の製品です。

わたしは仕事で訪問診療をしています。震災後は患者さんが非常に動揺し、体調を崩す人が多かった。仕事に専念しなければならぬ、特別なことはできませんでしたが、石巻市や気仙沼市の病院に勤めたこともあり、現地が気にかかっていました。

そんなときに工房の製品を知りました。自宅の屋上に置くテーブルを探していたところでした。丈夫で値段も手ごろな上、支払ったお金が復興

被災地を少しだけ思い出して買う物を選ぶ。普段の暮らしの中でできる支援です。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

今できること プロジェクト

「今できることプロジェクト」とは、読者の皆さん、企業・団体の皆さん、河北新報社と一緒に、これからの被災地・被災者支援のあり方を考え、具体的なアクションへとつなげていくプロジェクトです。紙面では毎回、実際に行われている支援の事例を、いくつかの支援スタイルに分けて取り上げ、支援する立場の人と支援を受ける立場の人、双方の生の声をご紹介します。今回のテーマは、商品を買うことが被災者の雇用や被災地の復興につながる「商品購入型支援」です。

9月は特集紙面毎週掲載

皆さんの支援情報や参加しているプロジェクト、感じていることを「今できることプロジェクト」特設 HPにお寄せください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/index.html

河北 今できること

検索

facebookページもあります。

支援になる。支援企業の人材が地元の人に製作技術を教え、自立を助ける仕組みも素晴らしいと感じました。

注文のために工房に行くところ、どこかで見覚えのある顔が。工房長は、むかし何度か行ったことのある寿司屋の職人さんだったんです。知り合いではありませんでした。無事に再会できたことが本当に嬉しかったです。どうしているか分から

ない知人も多いですから。被災地のみならず、自分たちなりの方法で復興に向かってほしい。と願っています。思うようにやってみて、それを楽しんでほしい。ば何よりですね。

テーブルは木の質感が良く、家族はみんな気に入っています。先月はちゃぶ台も買いました。次は道路においでみんな座れるベンチかな、と話しています。

をしめて飽きないぐらい楽しいですよ。

もともと誰にでも作れるようにデザインされた家具です。簡単に、特殊な工具も要りません。わたし自身、素人に毛が生えた程度の腕です。それでも「被災地の支援の製品だから、品質は求められない」という段階は過ぎました。現に、支援の目的だけで購入する人は減っています。被災地から

といけません。まずは少しずつ製品の質を上げていかなければ、被災者自身がお金を稼げないままです。復興には元々必要だった産業を復活させるだけでなく、新しい産業を興す必要がますますあります。石巻市を置き、家を離れていきたいと思います。

◎自立復興を目指して開設された「石巻工房」

地元の人々が誇りを持って自立し、復興するきっかけをつくる「ものづくりのための場」として、建築やデザインにかかわる支援者らによって昨年開設されました。売り上げはスタッフの人件費などにあてられています。石巻市を「新しいまちへとバージョンアップさせる」ことを目的に、2011年6月に設立された一般社団法人「ISHINOMAKI 2.0」によるプロジェクトの一つです。



ほかにも、商品を買ったり、使ったりすることで、被災者の雇用や被災地の復興につながる支援事例があります。県内から3件紹介します。

①女川カレーBOOK（宮城県女川町） 問い合わせ先：女川商工会（電話 0225-53-3310）
震災後、炊き出しで作られていた特別ブレンドのスパイスカレーのキットを商品化した。町内に製造所があり、被災者の雇用につなげる。

②モービディック社のアクセサリ（石巻市） 問い合わせ先：モービディック社（電話 0225-75-2880）
ウェットスーツの端切れを使ったペットボトルケースや携帯電話ケースを販売。仮設住宅で暮らす被災者に一部製作を委託している。

③わたりのFUGURO（ふぐろ）（宮城県亘理町） 問い合わせ先：てしごとプロジェクト（電話 090-2888-9254）
亘理町の女性らが古い着物の生地を再利用して巾着袋を作っている。古くなった着物や反物を募集している。

●私たちも、被災地支援のため「今できること」とともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

IHI/アヴィエスホーム/アサヒビール 東北統括本部/いのちの電話 震災ダイヤル/岩手日日新聞社/岩松旅館/NTTデータ東北/鹿島建設 東北支店/キリンビールマーケティング 東北統括本部/ケーズデンキ/サッポロビール 東北本部/サントリービバ&スピリッツ 東北支社/JA全農みやぎ/JT 仙台支店/鈴木工業/住友生命 仙台総支社/住友林業 仙台支店/青南商事/セキスイハイム東北/石油連盟/仙台コカ・コーラボトリング/仙都タクシー/第一生命 仙台総合支社/大東住宅/タゼン/東海東京証券/東北三菱自動車/一般社団法人 日本手芸学会/日本政策金融公庫 仙台支店/日本製紙/日本製紙クレシア/日本生命 仙台支社/はとバス/東日本大震災事業者再生支援機構/ビルワーク/富士フイルムグラフィックシステムズ/ベルモースズキ/ペロタクシー/北洲ハウジング/ホテル佐勘/三井物産/三菱地所グループ/宮城県遊技業協同組合/みやぎ生活協同組合/宮城第一信用金庫/宮城中央ヤクルト販売/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 東北営業本部/河北新報社（順不同）

◎後援/宮城県、仙台市、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局/河北新報社営業部 tel 022-211-1318